

200822024A

厚生労働科学研究費補助金

子ども家庭総合研究事業

要保護児童における被虐待による問題や障害等の類型化  
された状態像とケアの必要量の相互関連に関する研究

平成20年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 筒井 孝子

平成21(2009)年 3月

厚生労働科学研究費補助金

子ども家庭総合研究事業

要保護児童における被虐待による問題や障害等の類型化された

状態像とケアの必要量の相互関連に関する研究

平成20年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 筒井孝子

平成21年(2009)年 3月

## 全体目次

### I. 総括研究年度終了報告

要保護児童における被虐待による問題や障害等の類型化された状態像とケアの必要量の相互関連に関する研究

研究代表者 筒井 孝子<sup>1</sup> 9

分担研究者担当章

第10章 乳幼児に提供されたケア量の調査- ケア提供を受けた乳幼児のアセスメント-

第11章 乳幼児に提供されたケア内容および時間の調査- 他計式1分間タイムスタディ法によるケア時間-

東野 定律<sup>2</sup> 226

協力研究者 筒井 孝子、大塚賀 政昭<sup>3</sup>、山内 康弘<sup>4</sup>

第12章 児童入所施設を調査する際の業務分類コードの開発

山縣 文治<sup>5</sup> 296

第13章 児童におけるアセスメントの妥当性について

庄司 順一<sup>6</sup> 308

### II. 研究成果の刊行に関する一覧表 372

<sup>1</sup> 国立保健医療科学院福祉サービス部福祉マネジメント室室長

<sup>2</sup> 静岡県立大学経営情報学部講師

<sup>3</sup> 立教大学大学院コミュニティ福祉研究科博士後期課程、国立保健医療科学院福祉サービス部

<sup>4</sup> 国立保健医療科学院福祉サービス部福祉マネジメント室研究員

<sup>5</sup> 大阪市立大学大学院生活科学研究科教授

<sup>6</sup> 日本子ども家庭総合研究所子ども家庭福祉研究部福祉臨床担当部長、青山学院大学文学部教育学科教授

## 総括研究年度報告目次

はじめに 9

第1章 研究の背景と目的 10

第2章 研究方法 10

第3章 全国の児童入所施設におけるケア資源の総量を把握に係る調査 20

第4章 入所児童の状態の把握 -児童等の基本属性からみた特徴- 42

第5章 児童入所施設における職員の勤務状況 83

第6章 入所児童の状態像を分類する手法としての要ケア度（仮）の開発 97

第7章 乳児院における乳幼児等の状態 103

第8章 乳児院のケア実態に関するパイロット調査入所乳幼児の状態（患者評価手法を用いて）の把握- 198

第9章 乳幼児の状態-「重症度・看護必要度」の評価項目における回答傾向- 203

第10章 乳幼児に提供されたケア量の調査- ケア提供を受けた乳幼児のアセスメント - 226

第11章 乳幼児に提供されたケア内容および時間の調査- 他計式1分間タイムスタディ法によるケア時間- 249

第12章 児童入所施設を調査する際の業務分類コードの開発 296

第13章 児童におけるアセスメントの妥当性について 308

資料編 335

結語 373

## 目次

はじめに.....	9
第1章 研究の背景と目的.....	10
1. 現状と課題.....	10
2. 研究の目的.....	10
第2章 研究方法.....	10
1. 調査の種類.....	10
2. 調査方法.....	11
(1) 全国の児童入所施設におけるケア資源の総量を把握に係る調査.....	11
(2) 提供されているケア内容およびケア量に関するパイロット調査.....	16
(3) 児童入所施設職員等に対するケア内容に関するヒアリング調査.....	19
第3章 全国の児童入所施設におけるケア資源の総量を把握に係る調査.....	20
1. 入所児童の状況.....	20
(1) 入所定員数及び在籍児童数.....	20
(2) 入退所児童数.....	22
(3) 退所児童における年齢階層別退所者退所理由.....	23
(4) 加算該当児童数.....	28
(5) 平均入所期間.....	29
2. 児童入所施設の運営状況.....	29
(1) 児童1人当たり予算.....	29
(2) 施設種別常勤および非常勤職員数.....	30
(3) 施設種別直接ケア職員及び専門職種等の職員配置状況.....	32
(4) 平均ボランティア・実習生の受入れ人数の状況.....	34
(5) ケアの形態.....	35
(6) 家族療法の実施状況.....	40
(7) 今後必要とする事柄.....	40
第4章 入所児童の状態の把握 -児童等の基本属性からみた特徴-.....	42
1. 児童の基本属性.....	42
(1) 各施設種別養護問題発生理由（複数回答）.....	42
(2) 主たる入所理由（母子生活支援施設のみ・単独回答）.....	44
(3) 入所前の居所.....	44
(4) 他の入所経験施設（重複あり）.....	45
(5) 通学（園）の有無及び状況（児童養護施設のみ）.....	46

(6) 家庭復帰の見通し.....	47
(7) 退所の見込み（母子生活支援施設のみ）.....	48
(8) 保護者の状況.....	48
(9) 主たる保護者（「保護者の状況」で「両親ともいない又は不明」の場合）.....	49
2. 親（または主たる保護者）の状況.....	50
(1) 養育の困難度.....	50
(2) 養育に関する問題状況.....	51
3. 入所世帯の状況（母子生活支援施設のみ）.....	53
(1) 世帯の基本属性.....	53
(2) 母親の就業状況.....	54
(3) 情緒・行動上の問題状況.....	55
4. 児童の心身の状況.....	58
(1) 情緒・行動上の問題状況（複数回答）.....	58
(2) 心身の状況（身体疾患・身体障害）.....	65
(3) 心身の状況（精神障害）.....	66
(4) 定期的な通院の状況.....	68
(5) 心理療法の状況.....	69
(6) 被虐待体験の有無及び虐待の種類と複数該当の状況.....	71
5. ケアの適合状況.....	73
(1) 入所児童に対するケアの適合状況.....	73
(2) 現在の入所先が「適していない」とされた児童についてのケアの負担感.....	76
(3) ケアの負担感別でみる「適している」と考えられる他の施設.....	77
(4) ケアの負担感と情緒・行動上の問題状況.....	80
第5章 児童入所施設における職員の勤務状況.....	83
1. 職員の基本情報.....	83
(1) 施設種類別・職種別の集計対象.....	83
(2) 職種別平均勤務日数.....	83
(3) 職種別平均勤務年数.....	85
(4) 住込み職員の状況.....	86
(5) 平均当直回数（1週間あたり）.....	86
2. 専門職員の配置状況と資格保有状況.....	87
(1) 心理療法担当職員の配置状況.....	87
(2) 家庭支援専門相談員の配置状況.....	87
(3) 医師の配置状況.....	88
(4) 職員の資格保有状況.....	88
3. 職員の1週間の勤務状況.....	91

(1) 1週間の規定勤務時間数.....	91
(2) 1週間の合計勤務時間数.....	92
(3) 1週間の規定時間外勤務発生職員割合.....	93
(4) 職員の規定時間外勤務の主な対応内容.....	95
第6章 入所児童の状態像を分類する手法としての要ケア度（仮）の開発.....	97
1. 双対尺度法による情緒・行動上の問題得点の算出方法.....	97
2. 得点化の方法.....	97
3. 情緒・行動上の問題得点の算出（全児童の平均及び標準偏差）.....	101
第7章 乳児院における乳幼児等の状態.....	103
1. 乳幼児の基本属性.....	103
(1) 出生年.....	103
(2) 性別.....	105
(3) 入所年数.....	106
(4) 入所回数.....	107
(5) 養護問題の発生理由.....	108
(6) 入所前の居所.....	122
(7) 兄弟の状況.....	122
2. 保護者の状況などからみた乳幼児.....	123
(1) 保護者の状況.....	123
(2) 家庭復帰の見通し.....	124
(3) 身体疾患・障害による養育の困難度.....	127
(4) 知的障害による養育の困難度.....	129
(5) 精神障害による養育の困難度.....	131
(6) 養育の問題状況（人的障害傾向）.....	133
(7) 養育の問題状況（抑うつ傾向）.....	135
(8) 養育の問題状況（アルコール乱用）.....	137
(9) 養育の問題状況（子どもへの愛着形成の困難）.....	139
(10) 養育の困難度別にみた家庭復帰の見通しについての考察.....	140
3. 情緒・行動上の問題からみた乳幼児.....	141
(1) 情緒・行動上の問題（自閉的傾向）.....	141
(2) 情緒・行動上の問題（養育者との関係性）.....	145
(3) 情緒・行動上の問題（注意欠陥・多動傾向）.....	148
(4) 情緒・行動上の問題（反社会的行動傾向）.....	151
(5) 情緒・行動上の問題（自傷行為）.....	154
(6) 情緒・行動上の問題（排泄問題）.....	157
(7) 情緒・行動上の問題（言語能力の発達遅延・障害）.....	160

(8) 情緒・行動上の問題（知的障害）	163
(9) 情緒・行動上の問題（施設内における他児へのいじめ）	166
(10) 情緒・行動上の問題（施設内における他児からのいじめ）	168
(11) 情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し、ケアの負担感、適合状況についての考察	170
4. 心身の状況からみた乳幼児	171
(1) 心身の状況（身体疾患・障害）の有無	171
(2) 心身の状況（精神障害）の有無	174
(3) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者手帳の所持	180
(4) 精神科・心療内科の通院の有無	183
(5) 精神科・心療内科での投薬の有無	184
(6) 精神科・心療内科以外の診療科への通院の有無	185
(7) 精神科・心療内科以外の診療科での投薬の有無	186
(8) 施設における心理療法の実施の有無	187
(9) 施設外における心理療法の実施の有無	188
(10) 心理療法の必要性	189
(11) 被虐待体験の有無	190
(12) 家族療法の実施の有無	191
(13) 家族療法の必要性	192
5. 乳児院におけるケアの状況等について	193
(1) 主たるケア形態	193
(2) ケアの担当制	194
(3) 勤務経験延べ年数	195
(4) ケアの適合状況	195
(5) 適していると思われる他の施設	196
(6) ケア負担感による分類	197
第8章 乳児院のケア実態に関するパイロット調査-入所乳幼児の状態（患者評価手法を用いて）の把握-	198
1. 調査の目的および方法	198
2. 乳幼児の基本属性	198
(1) 性別	198
(2) 平均年齢	198
3. 乳幼児の「重症度・看護必要度」基準による A 得点の特徴	199
4. 乳幼児の「重症度・看護必要度」基準における B 得点の特徴	200
5. 患者分類による乳幼児の分類	201
第9章 乳幼児の状態 - 「重症度・看護必要度」の評価項目における回答傾向-	203



1.乳幼児に提供された医療的な処置（「重症度・看護必要度」A項目の評価結果）	203
2.乳幼児の日常生活の自立度に係る評価（「重症度・看護必要度」B項目の評価結果）	210
3.患者分類別A得点、B得点の比較	219
4.乳児の状態の評価データから算定された必要とされる看護師の配置人数	222
(1) 必要なケア量の推定方法	222
(2) 必要なケア量と実際のケア量との乖離	222
第10章 乳幼児に提供されたケア量の調査-ケア提供を受けた乳幼児のアセスメント-	226
1.1 分間タイムスタディ調査対象者の基本属性	226
2.乳幼児の状態の評価	227
(1) A得点（医療的ケア）の平均値等	227
(2) 乳幼児のB得点（日常生活の自立度）	228
(3) 調査対象乳幼児の患者分類	229
(4) 患者分類別乳幼児のA項目（医療的ケア）の回答状況	230
(5) 患者分類別乳幼児のB項目（日常生活の自立度）の回答状況	238
(6) 患者分類別のアセスメント項目の評価の比較	248
第11章 乳幼児に提供されたケア内容および時間の調査 -他計式1分間タイムスタディ法によるケア時間-	249
1.一人当たり乳幼児に提供されていた総ケア時間	249
2.患者分類別総ケア提供時間の比較	250
3.提供されたケア内容（大分類）別時間の比較	251
4.提供されたケア内容とケア時間	254
5.児童に提供されたケア内容（発生率が高いケア内容）	275
第12章 児童入所施設を調査する際の業務分類コードの開発（山縣文治）	296
第13章 児童におけるアセスメントの妥当性について（庄司順一）	309
資料編 【施設種別年齢区分別分析結果（第6章関連）】	335
(1) 児童養護施設（①3歳未満）	335
(2) 児童養護施設（②3-7歳未満）	336
(3) 児童養護施設（③7-16歳未満）	338
(4) 児童養護施設（④16歳以上）	341
(5) 乳児院（①3歳未満）	344
(6) 乳児院（②3-7歳未満）	345
(7) 情緒障害児短期治療施設（①7-16歳未満）	347
(8) 情緒障害児短期治療施設（②16歳以上）	350

(9) 児童自立支援施設 (①7～16 歳未満) .....	353
(10) 児童自立支援施設 (②16 歳以上) .....	356
(11) 母子生活支援施設 (①3 歳未満) .....	358
(12) 母子生活支援施設 (②3～7 歳未満) .....	359
(13) 母子生活支援施設 (③7 歳～16 未満) .....	361
(14) 母子生活支援施設 (④16 歳以上) .....	364
(15) 母子生活支援施設 (母親) .....	367
(16) 母子生活支援施設 (母子関係) .....	370
結語.....	373

はじめに

平成19年6月に交付された「児童虐待の防止等に関する法律及び児童福祉法の一部を改正する法律」の附則においては、「政府は、児童虐待を受けた児童の社会的養護に関し、里親及び児童養護施設等の量的拡充に係る方策、児童養護施設等における虐待の防止を含む児童養護施設等の運営の質的向上に係る方策、児童養護施設等に入所した児童に対する教育及び自立の支援の更なる充実に係る方策その他必要事項について速やかに検討を行い、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする」とされた。

これは、近年、社会的養護を必要とする子どもの数の増加や虐待等子どもの抱える背景の多様化・複雑化がますます顕著になってきている中、社会的養護体制の拡充に向けた取り組みが強く求められていることが背景となっている。

このような状況を踏まえて、平成19年11月にとりまとめられた社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会報告書において、子どもの状態や年齢に応じた適切なケアを実施できるよう現行の施設類型のあり方を見直すとともに、人員配置基準や措置費の算定基準の見直し等も含めてケアの改善に向けた方策の検討が必要であること、このような見直しを具体的にすすめるためには必要な財源の確保が不可欠であるとともに、現在施設内で行われているケアの現状を詳細に調査・分析することが必要とされた。

しかしながら、こういった検討に必要となる、児童入所施設の実態および社会的養護に係る施設に入所している個々の児童の基礎的なデータについては、必ずしも蓄積されているとは言い難く、社会的養護体制における施設機能の見直しに際して、基礎的なデータに加え、ケアの現状に関する定量的なデータが不可欠である。

本研究は、先に示された専門委員会の報告書の『現在施設内で行われているケアの現状を詳細に調査・分析することが必要』という指摘を受けたかたちで、全国の児童入所施設の概況、全入所児童に関する基本属性、ケアの形態、心身の状況、ケアのミスマッチの状況、及びケアの負担感などの詳細な調査を行った。

また、ケアの現状を詳細に調査分析する手法や、その結果の検証を検討するために先行研究として、乳児院における調査、及び、他計式1分間タイムスタディ法を用いたケア内容別業務量調査を実施した。

本研究が、児童の状態に応じた支援体制を見直し、効果的な処遇を図るための基礎資料として活用されることになれば幸甚である。

## 第1章 研究の背景と目的

### 1. 現状と課題

平成19年5月に成立した改正児童虐待防止法の附則に示された「政府は、児童虐待を受けた児童の社会的養護に関し、里親及び児童養護施設等の量的拡充に係る方策、児童養護施設等における虐待の防止を含む児童養護施設等の運営の質的向上に係る方策、児童養護施設等に入所した児童に対する教育及び自立の支援の更なる充実に係る方策その他必要事項について速やかに検討を行い、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする」と規定された。

また社会保障審議会児童部会社会的養護専門委員会では、子どもの状態に応じた支援体制については、①子どもの状態に応じた心理ケア、治療的ケアの充実・強化、②パーマナンスケア（継続した生活環境や人間関係に基づくケア）の強化、③施設における小規模ケアの推進、の3つの観点から、児童入所施設の最低基準の見直しを視野に入れた検討を行っている。

しかしながら、こういった検討に必要な児童入所施設の実態および社会的養護を必要としている児童等の基礎的なデータは、詳細なものが蓄積されているとは言い難い状態であった。特に、児童虐待を受けた児童の社会的養護体制とりわけ児童入所施設の最低基準の見直しに際して、質、量とも充実した整備を行うためのケアの現状についての基礎的なデータが必要となった。

### 2. 研究の目的

第1に、全国の児童入所施設におけるケア資源の総量を把握するために、施設の「構造」に係るデータの収集。

第2に、20年度調査の際のサンプリングを適切に行うための施設データベースの作成。

第3に、入所児童のケアの必要度を分類するための指標開発のための資料収集。

第4に、パイロット研究として乳児院のケア内容及び状態評価に関する調査を実施し、提供ケアの内容と時間の実態を明らかにする。

第5に、乳児院の乳幼児の実態とケア提供時間の分析結果から、適正な人員配置を推定し、実配置との比較を行う。

第6に、児童入所施設における業務量を調査するためのケア業務分類コードの開発。

第7として、入所児童におけるアセスメント項目の抽出、及び、その妥当性の検証。

## 第2章 研究方法

### 1. 調査の種類

(1) 全国の児童入所施設におけるケア資源の総量を把握に係る調査

- ① 全国の児童入所施設の人員配置、設備等の基準の調査、及び、全入所児童の基本属性に関する調査
- ② 社会的養護を必要とする児童が入所する施設のケアの形態を含む運営状況等、及び児童の在籍状況調査
- ③ 社会的養護における入所児童の心身の状況や入所児童に対するケアのミスマッチの状況、及びケアの負担状況調査
- ④ 社会的養護における職員の職種別配置状況や勤務状況の調査

(2) 提供されているケア内容およびケア量に関するパイロット調査

- ①乳児院の乳幼児の状態についての調査
  - ②乳児院における他計式1分間タイムスタディ法を用いたケア内容別業務量調査
- (3) 児童入所施設職員等に対するケア内容に関するヒアリング調査  
ケア内容別業務量調査実施のための手法開発に向けたヒアリング調査
- (4) 児童入所施設職員等に対する乳幼児や児童に関するアセスメントのヒアリング調査  
各種別の施設において、乳幼児や児童に関する状態を把握するためのアセスメント項目  
に関してのヒアリング調査

## 2. 調査方法

### (1) 全国の児童入所施設におけるケア資源の総量を把握に係る調査

#### 1) 調査対象

調査は、以下の5種類の施設を対象として全1,040施設（平成20年3月時点で把握した施設数）について悉皆調査を行った。

調査対象は、乳児院（121施設）、児童養護施設（559施設）、情緒障害児短期治療施設（31施設）、児童自立支援施設（58施設）、母子生活支援施設（271施設）の合計1,040施設である。

#### 2) 調査手法

調査票を配布し、悉皆調査を行った。調査票の記入は施設の事務担当職員に依頼し、児童に関する個票については、調査項目の内容に応じて、適宜、医師や看護師、児童のケアを担当する保育士、児童指導員、心理療法担当職員等に情報提供を依頼し、調査項目の記入を依頼した。記入を終えた調査票を調査事務局宛に郵送で返却を依頼し、回収を行った。

#### 3) 調査票の種類

##### ①施設に関する調査票

調査対象施設における在籍者や職員の状況及びケアの形態を含む運営状況等の施設属性を把握する。

##### ②児童の状況に関する調査票

社会的養護において、現在、入所している児童の心身の状況の実態を把握する。

③当該施設において、施設機能と当該施設に入所している児童の状態像との間に不適合が発生していると判断された場合には、下記の事項についてさらに、詳細な調査を実施した。

- a. 現在の入所施設よりも他に適している施設が考えられる児童数
- b. 不適合とされた児童に適していると考えられる施設とその理由
- c. 不適合とされた児童についてのケアの負担感
- d. 不適合とされた児童の心身の状況及び情緒・行動上の問題特性等

a. から d. までの情報を把握することにより、各施設において職員のケア負担感が大きい児童の特性や、児童の特性とケアの適合状況を定量的に把握することを目的とした。

#### 4) 職員の勤務状況に関する調査票

社会的養護において、児童の問題が複雑化する中での職種別の職員配置方法や勤務状況、職員の保有資格の状況等について把握した。

5) 調査票の項目概要

①施設に関する調査票

1	入所定員数および在籍児童数	平成 20 年 3 月 1 日時点の施設における入所定員数と在籍児童数
2	平成 18 年度の入退所児童数	平成 18 年度の施設における入所児童数と退所児童数実績
3	年齢階層別退所理由	平成 18 年度の退所児童についての退所理由（退所先）別の内訳
4	加算対象児童	平成 20 年 3 月 1 日時点で国の定める各種加算等の対象となる児童数等
5	平均入所期間	平成 20 年 3 月 1 日時点で施設に在籍する児童の平均入所期間
6	平成 18 年度予算	平成 18 年度の施設の入所児童のケアに係る運営予算および人件費支出
7	職員数	平成 20 年 3 月 1 日時点で施設と契約のある常勤職員および非常勤職員数
8	ボランティア・実習生の受入れ状況	平成 18 年度のボランティアおよび実習生の受入れ実績（延べ人数）
9	ケアの形態	平成 20 年 3 月 1 日時点の施設のケアの提供体制
10	家族療法の実施状況	平成 18 年度の家族療法の実施実績および平成 19 年度中の実施状況
11	今後必要とする事柄	施設が今後も適切な運営やケアを行っていくために、最も必要だと考える事柄

②児童の状況に関する調査票

1	生年月・性別	当該児童の生まれた年月および性別
2	施設への入所年月	当該児童の施設への入所年月および入所回数
3	養護問題発生理由	当該児童の養護問題が発生した理由
4	入所前の居所	当該児童の施設への入所前の居所
5	兄弟の状況	当該児童の兄弟（姉妹含む）の入所有無（同施設に限定）
6	他の入所経験施設	当該児童が現在の施設以外に入所したことがある施設（里親含む）
7	保護者の状況	当該児童の親の状況
8	主たる保護者【「保護者の状況」で「不明またはいない」を選択した場合】	両親共にいない場合の当該児童の主たる保護者
9	家庭復帰の見通し【親（主たる保護者）がいる場合のみ】	当該児童の家庭復帰の見通し
10	通学（園）の有無（児童養護施設入所児童のみ）	当該児童の通学・通園の有無
11	通学（園）の状況【通学（園）有りの場合】	当該児童の通学（園）の状況
12	障害者手帳所持の状況	当該児童の親（主たる保護者）の障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳（知的障害者福祉手帳）、精神障害者保健福祉手帳）の所持の状況
13	養育の困難度	当該児童の親（主たる保護者）にみられる要因別養育の困難度
14	養育に関する問題状況	親（主たる保護者）の養育の困難と関連すると考えられる問題状況
15	心身の状況（身体疾患・障害）	当該児童の身体疾患・障害の保有状況（医師の診

		断を伴うもの)
16	主な身体疾患・障害【身体疾患・障害有りの場合】	当該児童の主な身体疾患・障害の種類

身体疾患	1. 外科系	身体障害	9. 視覚障害
	2. 内臓系		10. 聴覚障害（難聴）
	3. アトピー性皮膚炎		11. 言語・音声障害（ろうあ）
	4. アトピー以外の皮膚の病気		12. 肢体不自由
	5. 泌尿器の病気		13. 内部（内臓）障害
	6. 耳鼻科・眼科の病気		14. 免疫機能障害
	7. 喘息		15. その他
	8. 喘息以外のアレルギーの病気		

17	心身の状況（精神障害）	当該児童の精神障害の保有状況（医師の診断、または、疑いが有るもの）
18	主な精神障害【精神障害有りの場合】	当該児童の主な精神障害の種類

<18-1 主な心身障害の詳細>

発達障害系	1. 精神遅滞	学習障害	気分障害系 その他の精神障害	28. 大うつ病性障害	摂食障害 排泄障害
	2. 読字障害			29. 気分変調性障害	
	3. 書字表出障害			30. 双極性障害	
	4. 算数障害			31. 異食症	
	5. その他の学習障害			32. 反芻性障害	
	6. 自閉性障害	33. 神経性無食欲症			
	7. レット障害	34. 神経性大食症			
	8. 小児期崩壊性障害	35. その他の摂食障害			
	9. アスペルガー障害	36. 遺糞症			
	10. その他の広汎性発達障害	37. 夜尿症			
	11. 発達性協調運動障害	38. その他の排泄障害			
	12. コミュニケーション障害 (音韻障害、吃音等)	39. 選択性緘黙			
行動障害系	13. 注意欠陥・多動性障害	恐怖性障害	40. 常同運動障害		
	14. 行為障害		41. 性障害および性同一性障害		
	15. 反抗挑戦性障害		42. 睡眠障害		
不安障害系	16. パニック障害		43. 人格障害		
	17. 全般性不安障害		44. 統合失調症		
	18. 強迫性障害		45. その他の精神障害		
	19. 外傷後ストレス障害				
	20. 単一恐怖				
	21. 対人恐怖				
	22. その他の恐怖性障害				
	23. 分離不安障害				
	24. 反応性愛着障害				
	25. 解離性障害				
26. 転換性障害					
27. その他の身体表現性障害					



1 9	障害者手帳所持の状況	当該児童の障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳(知的障害者福祉手帳)、精神障害者保健福祉手帳）の所持の状況
2 0	定期的な通院の状況	当該児童の定期的な医療機関（精神科・心療内科およびその他の科）への通院の状況および投薬状況
2 1	心理療法の状況	当該児童の心理療法の状況
2 2	被虐待体験の有無	当該児童の被虐待経験の有無（ケア担当者の判断）
2 3	虐待の種類【被虐待体験有りの場合】	当該児童が受けた虐待種類（複数回答）
2 4	家族療法の状況	当該児童の家族療法の状況
2 5	当該児童の主たるケア形態	当該児童の主たるケアの形態
2 6	当該児童の主たるケア形態以外のケア形態（自由記述）	主たるケア形態以外に、週末や休み期間のみ施設内で別の形態にてケアを行っている場合などのケア形態
2 7	ケアの担当制	当該児童に対するケアの担当制（単独／複数／チームのいずれか）
2 8	ケアの適合状況	当該児童の情緒・行動上の問題状況の現況、または、身体疾患・障害や精神障害の心身の状況などからみて、普段のケア状況を踏まえた上で、その施設におけるケアが当該児童に適しているかどうか
2 9	適していると考えられる他の施設【ケアが適していないと回答した場合】	当該児童のケアに対してより適していると考えられる他の施設（選択肢）
3 0	適していないと考える理由【ケアが適していないと回答した場合】	当該児童のケアにその施設が適していないと考えられる理由（自由記述）
3 1	ケアの負担感【ケアが適していないと回答した場合】	施設におけるケアが「適している」児童のケアと比較して、当該児童のケアの負担感を[1. 変わらない/2. やや重いケア負担/3. かなり重いケア負担]の三段階での評価

### ③職員の勤務状況に関する調査票

1	各職員の職名の記入	調査期間に雇用契約のある全職員の職名（施設で用いている職名ではなく、施設の最低基準等に規定されている職名を優先）
2	資格の保有状況	各職員が保有する資格（資格記入対象の職員のみ）
3	児童福祉施設での勤務経験年数	各職員の措置費の民間施設給与等改善費の対象となる職員の勤務年数の算定に準ずる経験年数
4	雇用・勤務形態	常勤／非常勤／常勤住込／非常勤住込のいずれかを選択。
5	1週間の規定勤務時間数	常勤者の場合、当該施設の所定労働時間、非常勤者の場合は、雇用契約時の労働時間

6	当直区分	当直対象の職員の区分
7	勤務時刻の記入	調査期間中に実際に勤務した開始時刻と終了時刻(労働基準法に定められる休憩時間は含まれているものとする)
8	通常の勤務時間を超えた主な対応内容	1週間の規定外勤務時間で対応した内容のうち主たるもの

## (2) 提供されているケア内容およびケア量に関するパイロット調査

-乳児院を対象として-

### 1) 調査対象

調査協力の得られた医療型の乳児院2施設を対象とした。

### 2) 調査手法

本調査は、比較的年齢幅が小さく、生育歴の浅い乳児が入所する乳児院において、乳児の状況に応じた職員の業務量(人員配置)の実態を把握することを目的に他計式タイムスタディ調査を行った。

この調査では、調査対象児童に対して直接的にケアを行っている職員(看護師、保育士)を対象とする他計式の1分間タイムスタディ調査(職員用タイムスタディ調査)と特定の児童とその児童にケアを提供している職員を対象とする他計式の1分間タイムスタディ調査(児童用タイムスタディ調査)の2種類の調査を同時期に実施した。調査期間は、いずれも24時間とした。

職員用タイムスタディ調査は、職員の行動を1分毎に「だれに」、「何を(ケア内容)」ケアしたか、また、「その時のケア担当者の身体的負担感、精神的負担感」を同時に調査員によって記録していく調査とした。

児童用タイムスタディ調査は、特定の児童に対して1分毎に児童の状態と提供されたケアを調査員が記録していく調査とした。

児童の状態の把握については、医療保険における診療報酬において、すでに患者の評価に利用されている「重症度・看護必要度に係る評価票」の評価項目を用いた。なお、評価にあたっては、評価項目に係る研修を実施した。

### 3) 調査内容

調査内容は、以下の通り、①職員用タイムスタディ調査、②児童用タイムスタディ調査、③アセスメント票による調査である。

#### ①職員用タイムスタディ調査

下図に示すような調査票を作成し、職員における1分毎のケア業務内容、ケア業務分類コード、児童コード、身体的・精神的負担の有無を記録した。

時 分	ケア業務内容	ケア業務 分類コード	調査対象者							負担		
			児童コード							人数	身体	精神
5 :30	*****ちゃん検温	136	3									
:31	*****さん 乳首くわえなおし	606	12									
:32	*****さん 検温	136	4									
:33	*****さん 検温	136	7									
:34	*****さん ミルク温め 介助	606	6									
:35	*****さん 吸引	215	6									
:36	*****さん 吸引	215	6									
:37	*****さん 吸引	215	6									
:38	*****さん 吸引	215	6									
:39	*****さん 首まわり清拭き	13	6									

## ②児童用タイムスタディ調査

下図に示すような調査票を作成し、特定の児童に対して20秒毎に児童行為（ニーズ等）、訴えの有無、ケア業務内容、ケア業務分類コードを記録した。

時 分	秒	児童行為内容(ニーズ等)	訴えや症状の有無	秒	ケア業務内容	担当職員ID(10)					担当職員ID( )									
						ケア業務分類コード					ケア業務分類コード									
						1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
20	:30	20 泣きはじめる	1	20	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
		40 泣きはじめる	1	40	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
		60 泣きはじめる	1	60	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
	:31	20 泣きはじめる	1	20	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
		40 泣きはじめる	1	40	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
		60 泣きはじめる	1	60	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
	:32	20 泣きはじめる	1	20	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
		40 泣きはじめる	1	40	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
		60 泣きはじめる	1	60	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
	:33	20 泣きはじめる	1	20	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
		40 泣きはじめる	1	40	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
		60 泣きはじめる	1	60	*****、足でトッターを揺り動かす	611														
:34	20 泣きはじめる	1	20	*****、足でトッターを揺り動かす	611	142														
	40 泣きはじめる	1	40	*****、足でトッターを揺り動かす	611															

③乳幼児の状態に係る調査

「重症度・看護必要度に係る評価票」を用いた調査を実施した、調査項目の詳細は、以下の通りである。

1. 標準- A (モニタリング及び処置等)

A-1. 創傷処置	1. なし	2. あり			
A-2. 蘇生術の施行	1. なし	2. あり			
A-3. 血圧測定	1. 0回	2. 1-5回	3. 6-10回	4. 11-20回	5. 21回-
A-4. 時間尿測定	1. なし	2. あり			
A-5. 呼吸ケア	1. なし	2. あり			
A-6. 点滴ライン同時3本以上	1. なし	2. あり			
A-7. 心電図モニター	1. なし	2. あり			
A-8. 輸液ポンプの使用	1. なし	2. あり			
A-9. 動脈圧測定(動脈ライン)	1. なし	2. あり			
A-10. シリンジポンプの使用	1. なし	2. あり			
A-11. 中心静脈圧測定(中心静脈ライン)	1. なし	2. あり			
A-12. 人工呼吸器の装着	1. なし	2. あり			
A-13. 輸血又は血液製剤の使用	1. なし	2. あり			
A-14. 肺動脈圧測定(スワン'ゴウカテーテル)	1. なし	2. あり			
A-15. 特殊な治療法(CHDF, IABP, PCPS, 補助人工心臓, ICP測定等)	1. なし	2. あり			

2. 標準- B (患者の状況等)

B-1. 床上安静の指示	1. なし	2. あり	
B-2. どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	1. できる	2. できない	
B-3. 寝返り	1. できる	2. 何かにつかまればできる	3. できない
B-4. 起き上がり	1. できる	2. できない	
B-5. 座位保持	1. できる	2. 支えがあればできる	3. できない
B-6. 移乗	1. できる	2. 見守り・一部介助が必要	3. できない
B-7. 移動方法	1. 自立歩行・つかまり歩き	2. 補助を要する移動(搬送を含む)	3. 移動なし
B-8. 口腔清潔	1. できる	2. できない	
B-9. 食事摂取	1. 介助なし	2. 一部介助	3. 全介助
B-10. 衣服の着脱	1. 介助なし	2. 一部介助	3. 全介助
B-11. 他者への意思の伝達	1. できる	2. できる時とできない時がある	3. できない
B-12. 診療・療養上の指示が通じる	1. はい	2. いいえ	
B-13. 危険行動への対応	1. ない	2. ある	

3. 追加アセスメント

A-16. 手術	1. なし	2. 手術前日	3. 手術当日
A-17. 計画に基づいた10分以上の指導	1. なし	2. あり	
A-18. (看護計画に基づいた)10分以上の意思決定支援	1. なし	2. あり	
A-19. 身体的な症状の訴え	1. なし	2. あり	
A-20. 退院予定	1. なし	2. あり	